

## ムダな農林事業の現場から

“税金のムダづかい”には、たぶん誰もが反対だと思います。ただし、わが身にふりかかった具体的な場面で一人ひとりはどういう態度をとれるのかが問われるんだと思います。たとえば最近の事例から…

先日、生産組合長さん(地域の農業の世話役)が、訪ねてきました。  
「ちょっと名前を書いて、ハンコを押してほしいんだ」  
「なんの署名だっぺ?」  
「よくわがねえんだけど、農道の工事のことらしい」  
「このリーフレットはもらえんのげ?」  
「それは一部ずつ配るんだ」  
「ああ〜、あそこの広域農道に、もっと予算をつけっぺっていうわけだ」  
「いまそこのGさんは“暴走族くれえしか走ってねえ”っていった」  
「んだけど、これって道路を作ってくださいって農家が要望することになる署名だっぺよ」  
「そうなのかな。市役所から送られてきたから、しかだねえ集めでまわってた」  
「悪いけど、協力ができねえなあ」  
「そおけ、その人の意志だがん」  
「よく見っと、146億円だった予算を266億円に、120億円も増やすって話だよ。ちょっと俺、市役所に行って話聞いてくるわ」  
「そうしてよ。ちゃんと話きてきてよ」



両側に設置されたガードレールが隠れるほど雑草が茂っても、あまり困らない?広域農道

というやりとりはあったのですが…  
だいたい署名が集まったようです。

＊

さっそく市役所に行ってきました。  
「予算を倍近くに増やすっていうんだけど、どんな中身のの?」  
「私も詳しくはわからないんですよ」  
「農林課の名前で回覧を配って、生産組合長さんに仕事をさせているのに、無責任だっぺよ」  
「県の土地改良事務所から依頼されたものですから」  
「こんな重大な問題なのに、中身はともかくハンコを押せてことですか」  
「あれば便利な道路だと思います」  
「税金の使い道の優先順位を考えて仕事をするのが行政の役目だっぺよ」  
「鈴木さんの反対はわかりました」

＊

たらい回しよろしく高萩にある県の土地改良事務所にも足を運びました。  
「あらたに120億円もの税金投入するのに、あんないいかげんな段取りで決めちゃうんですか?」  
「そのように法律で決まっています」  
「議会での審議はおろか、事前に住民への公開すらしない?」  
「各市町村の役場に掲示をして、関係住民の意見を求めました」  
「いつですか、そして期間は?」  
「この7月に、5日間です」  
「まさにアリバイだね。たとばリーフレットなどの作成準備は、先行してははじめちゃったんだ」  
「あ、5月にも掲示をしています」



7種類の古代米を植えたけど、うち3種類のモチ米を栽培する田んぼ。左から、黒モチ、赤モチ、緑モチ。



歩道もガードレールもないまま放置される危険な通学路

「やはり市役所に?」  
「いえ、そのときは常陸太田の土地改良事務所だけでした」  
「それで、北茨城から大宮までの農家に公開したことになるの?」  
「決められた手順とおりです」  
「ろくな中身の説明もなく同意署名が集められている。ごちゃっぺだ」  
「対象人数が多いものですから、各市町村にお願いしました」  
「そうやって全国で多額の税金投入が決められちゃうわけだ」  
「……」  
「もっと有意義に農林予算は使うべきではないですか。道路にしたって、もっと切実なところはいくらでもある」

＊

ある集落では、道路計画の全線開通はなくなって、そのことへの同意だと思って署名したという人もいたのには驚きました。そんなこんなで、とにかく農家だけを対象に、その2/3の同意が集まれば、あらたに120億円もの税金(借金)が投入されることになる、まさに今それが決められる真っ最中なのです。  
農家も迷惑な話だけど、農家以外の人、さらには対象地域以外の人、黙視していいのかなあ。